



↑ 皇帝ダリアは今年は全滅かもしれない(右)。しかし、梅雨告げ花と名づけたタチアオイは、花が終わって切り取られた株から見事な花をつけた。

→ やっと生温くない風が吹いてきた。次は雨がほしいなと若舟頭がいった。でも台風が日本海側を通過しそうだから、とうぶんだメかな、と若は黒い雲におおわれた空を見上げた。



このところ、ひとり満夫さんはご機嫌だ。

満夫さんは杉浦家の三男で先代舟頭の正雄さんの弟。一キロほど離れたところに別世帯を構えて暮らしている。

先代舟頭が亡くなって以来、土日や繁忙期には助っ人に来ている。

矢切の渡しを草花で飾ろうと、ひとり様々な植物の苗を持ってきては植えている。そのなかに皇帝ダリアがある。あちこちの皇帝ダリアがこの夏の暑さにやられ、大半が立ち枯れ状態にあるなかで、満夫さんが植えた苗はすくすくと育っている。

それだけではない。パイアの苗とアボガドの苗も植えた。矢切の風土に合うかどうか心配をしていたが、皇帝ダリアに負けず、この二種類も勢いよく育っている。

ご機嫌がいい光雄さんを横目に苦虫をかみつぶしているのが若舟頭だ。

「このままじゃ最後に生き残るのはアリだとかミミズだとかだけだよ」

若の得意の謎かけのような言葉が聞こえてきた。

今週のクマ

通りがかるゴルファーから餌をもらえないように棧橋側にクマの居場所を移してからおよそ半年。少しスリムになって精悍さをましたような気がする。やっぱり、犬もメタボでないほうがいい。



↑ 枯れ木に花を咲かせる爺さんがいたらしいが、矢切ではいま枯れ木にセミの花が咲いている。子孫を残すための産卵に余念がない。破れた羽が哀れ。

若の言葉はつき合いの少ない人には解説が必要だ。

あえて名づけければ「中抜き言葉」なのだが、つまりこういうことだ。

氷河期、地球上をわが物顔に闊歩していた恐竜たちは、次々と滅びていった。

いま、地球は異変を迎えている。そんな地球上を闊歩しているのは人間だ。したがって第一に滅びるのは人間にちがいないと若舟頭はほんきで信じている。

「ま、俺らの代にはないだろうけどさ」

まるでヘコキムシのように、ひとこと残して舟を漕ぎに行った。

ヘコキムシを知らない人のほうが多いだろうから他の生き物にたとえると、逃げるタコを連想してもらえばいい。

しかし、よく考えてみると若の言葉にも一理ありそうにおもえてくる。

この地球上でもっとも高等な生き物は人間だとだれが決めたのだろう。ちかごろ大騒ぎをしている舌をかみそうな名の菌、それもどこにでもいるその菌が、院内感染を起こし、幾人もの命を終わらせた。しかもこれが、人がつくり出したどんな抗生物質も効かないというのだからやっかいだ。人より優れた生き物はもしかしたらいっぱいいるかも……。